

静岡大学女性教員有志による、静岡大学二分割案に対する反対声明

少子高齢化の現在、大学の統合再編は全ての大学に共通する喫緊の課題であると私たちは考えます。しかしながら、大学の統合再編は、現在ある資源を最大限有効に活用した上で、将来に向けて競争力のある形で実現すべきものです。一方、学長が実行を目指す大学統合再編案は、静岡大学のキャンパスを東西2つに分割し、静岡市のキャンパス（人文社会科学部、教育学部、農学部、理学部等）を独立した単独の一大学とし、かつ、浜松市のキャンパス（工学部、情報学部等）と浜松医科大学による大学を設立することを目指すものです。本来、浜松医科大学との統合を考えるのであれば、一法人一大学化、現行の2大学の枠組み下での一法人化など、考えるべき選択肢は複数あったはずです。

しかしながら、学長は、静岡大学の東西分離に基づく統合再編のみを唯一の選択肢として統合再編を進めてきました。さらに、静岡キャンパスのみの大学になった場合のビジョンやメリットもはっきりと示されていません。実際、昨年度、国立大学改革強化補助金に申請した浜松医科大学との一法人化・静大二分割化計画案は不採択でしたが、所見の一つには、「静岡地区の統合メリットが見えない構想となっている」と書かれています。したがって、私たちは競争力のある静岡大学の今後を模索するのであれば、静岡大学を2つに分割することのない方法を選択すべきであると考えます。

大学は、真理を追究する学術研究を行う組織であり、かつ未来を担う人材を育成し、科学技術や知恵を社会に送り出す公共財です。従って、人材と社会の循環に貢献する静岡大学の果たすべき役割は大きいと私たちは考えています。さらに、浜松市と静岡市は持続可能な社会づくりを目指す「SDGs 未来都市」です。ジェンダーやマイノリティーの問題への取り組み、教育機会の確保、持続可能な地域づくり、そして未来への責任ある産業と技術革新の基盤を形成する必要があります。特に人口減少、とりわけ若い女性人材の流出に悩む静岡県においては、地域の発展のために、若い女性の視野を広げ、社会で活躍できるような多様な教育・実践の場として、私たち女性教員は総合大学のまま静岡大学を維持することを求めます。

私たちは、静岡大学と浜松医科大学との一法人化は支持いたします。しかし、現段階で、静岡大学を2つに分離することに反対の意を示します。私たちは、静岡県全体の活性化を担うべき総合大学として、これまでの研究教育の成果を競争力ある形で将来へと繋げていきたいと切に願っています。

静岡大学女性教員有志 45名
記名者 39名 無記名者 6名

連絡先 shizudaishorai@shizuoka.ac.jp